

第98回知的財産問題研究部会（IP部会）

テーマ『「モノからコトへ」時代の知財戦略』

日時 2023年7月7日（金）13:30～16:30

場所 アクトシティ浜松 研修交流センター 52

講師 弁理士・中小企業診断士 神谷 直慈 氏

弁理士・中小企業診断士の神谷直慈氏から近時の知財の捉え方、戦略について政府資料等を交えて詳しく説明をいただいた。

1. 知財戦略のトレンド

製造業（モノ）からサービス（コト）への産業構造の変化、AI/IoT やビッグデータの活用の重要性の高まり、社会解決型ビジネスの活発化、1 社クローズから企業間協業のオープンイノベーションの活発化等の社会環境の変化に伴い、知財「権」の保護から知的財産による価値創造を目指していくという大きなトレンドの変化が近年起きていることの説明があった。

2. そもそも「知的財産」とは？

知的財産とは、財産的価値を有する情報であり、発明を始めとしたアイデアのみならず、データ、ノウハウ、ソフトウェア、著作物、ブランド（商標）等々、旧来の特許・商標を中心とした知的財産権では保護することが難しいが財産的価値を有する情報が増えてきており、これらをいかに活用していくかがこれからの知財戦略では重要になることを説明いただいた。特に、データはそもそも権利化できるものではなく以下に契約で守るかが重要であり、ソフトウェアについては権利侵害を問うことが難しく秘匿による競争優位性の維持も選択肢であることの説明があった。

3. 経営資源としての「知的財産」

企業の「強み」の裏には、「知的財産」や「知的資産」があるものの旧来はこれを可視化することが行われていなかった。しかし、「知的財産」や「知的資産」を見える化することで、企業が守るべき「知的財産」や「知的資産」を認識でき、初めてこれを活用・保護することを実現する事ができるようになることの説明があった。

4. 仮想事例で考える

「知的財産」や「知的資産」の見える化を経営デザインシートを用いた仮想事例により説明いただいた。

5. 質疑応答

個別の内容は、企業内の事情に関連するため割愛するが、参加者それぞれが、自身の属する企業で抱えている普段相談できないような内容について神谷氏に質問し、かつ、神谷氏自身が答えるのみに限られず、参加者それぞれが質問に対して答える等、活発な議論が行われ、想定された質疑応答時間を越える議論が行われた。

6. まとめ

近年の知財トレンド、ここ数年で変化した知財の捉え方等、経営者の視点も交えた神谷氏の説明は非常にわかりやすかった。また、3 年以上ぶりの対面での開催であり、議論がどの程度行われるのか不安があったが、参加者それぞれが各自の持つ知見を共有できる有用な議論が行われ対面開催であることのメリットが大いに発揮された質疑応答であったと感じた。

～委員代表～